



みず色の空、

そら色の水

出演者

本公演の出演者は全員オーディションで決定致しました。(50音順)

石田智世
金明玉
久保田磨希
城之内和美
鈴木夕美子
千田訓子
武田操美
田村遊
中谷さとみ
西山美貴子
バカボン
原和代
藤原章子
洪仁順
松本喜美子
榎野恵子
山本麻衣子
吉本理香子
尾方宣久
奇異保
長尾弘喜
水沼建

サポートスタッフ

稲津郁代
井上智香子
小林里佳
長谷川有妙
原哲子
岩城覚久
岡田光弘
山東寿海
高奇歩
松宮信男
吉田究

作・演出／竹内統一郎 関西弁翻訳／岩崎正裕

舞台監督／桐山元一

照明／桐山元一

音響／藤田赤目

舞台美術／奥村泰彦

制作／前川房枝

プロデュース／津村卓

協力／扇町ミュージアムスクエア
ぴあ(株)

企画・製作／アイホール

主催／伊丹市

(財)伊丹市文化振興財団



約300人の中から選ばれた
13歳から34歳までの
あたらしい俳優たちと、
全編関西弁に書き換えられた
あたらしい言葉たち。
アイホールから出発する
あたらしい「みず色の空、そら色の水」

みず色の空、 そら色の水

「よわらじ」 YOSHIKAZU

久々に新作を書き終え、ここ数日間は稽古の毎日だ。予感していたのだが、演出の仕方に竹内さんの影響があるということが自分でもわかる。それ程、昨年のOMSプロデュース「坂の上の家」で、竹内さんと一緒に仕事ができたのは素晴らしいことだった。

的確な駄目出しと戯曲の持つ力を引き出す演出には刺激されっぱなしだった。それは、戯曲に内在している本質を正確に引っぱり出すというより、演出もまた表現であり、逆に戯曲の方に新しき意味がつけ加わるといった感じだった。芝居は戯曲のみで成立するのではないという当然のことを、初めて実感した。そして、何よりも、稽古場が楽しそうだったのが印象的だった。となれば、影響されない方がおかしい……。

「オイオイ、そんなに良く言うのも、眉唾モンだよ」という声が、ご本人を含め、聞こえてきそうだが、そもそも、竹内さんについて、冷静に語れというのも無理な話なのだ。何を隠そう、私は「竹内統一郎」のファンだったのだから……。

それは今でも、もちろん変わりはないが、さらに加えて、こう考えるようになった。

(フアン)の心理は不遜である故、笑わないで読んで欲しい。(親鸞は29歳で「よきひと」法然に出会い、ただ念仏して弥陀に助けられよ、という教えを信じるようになったそうである。私にとっては、32歳で出会った竹内さんこそ、もしかすると「よきひと」なのではないか……)

「ぶっ」と笑ってしまった人に弁明する。私は宗教家でもなく、聖人を気どるつもりもない。言うまでもなく、竹内さんから念仏の仕方を教わったわけでもない。

ただ、本当に尊敬できる人との出会いほど幸福なものはないと断言したかったのだ。

一九九六、五、三十一

松田正隆

日程／1996年8月29日(木) 7時
30日(金) 7時
31日(土) 3時
7時
9月 1日(日) 3時

各回とも開演の1時間前より受付にてチケットと入場整理券を交換致します。
当日券のお客様は前売券及び当日精算券のお客様の後からのご入場となります。

料金／前売2,500円 当日2,800円
高校生以下前売・当日ともに1,800円

会場／アイホール (JR伊丹駅前)

チケット取扱い／チケットぴあ ☎06-363-9999
アイホール ☎0727-82-2000
(高校生以下前売はアイホールのみで取扱い)

お問合せ／アイホール ☎0727-82-2000